

# 7 / 25 (木)

しるしを求めぬ心

マルコによる福音書八章11〜21節

イエスは、心の底から呻いて言われた。「なぜ、今の時代はしるしを求めぬのか。よく言っておく。今の時代には、決してしるしは与えられない。」(12)

フアリサイ派の人々がイエスのもとへ来て、天からのしるしを求めました。天からのしるしがなければ、イエスがメシアであることを認めないというのです。神にしるしを求める人々は、今も絶えることがありません。それは自分の考えに基準を置くようなものです。自分の基準にキリストが合うか合わないかを測ろうとします。しかし、イエス・キリストこそ真理の基準であり、そのキリストを測る基準などありません。神を測った上で信じようとするのは、品物を買う前に吟味するような態度です。自分に役立つ神を物色しているに過ぎず、人間に役立つ神を祭り上げる偶像礼拝の心です。私たちは神を測るのではありません。私たちはこそ神によって測られ、を探られるべき者たちです。神にしるしを求めないのでなく、神の言葉によって私たちの心を探っていたかどうか。